



教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市諏訪町2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

教育支援課
マスコットキャラクター
しえん君



「終わり」は、いつも新しい「始まり」

指導課長 廣瀬 琢也

3月になり、陽射しもすっきり春めいてきたように感じるこの頃です。この春の訪れに、この一年の終わりの安堵感と新たなスタートを迎える緊張感を同時に感じてしまうのは私だけではないと思います。

学校では、学校づくりビジョンに掲げた目指す子どもの姿や目指す学校の姿にどれだけ迫ることができたのかを検証し、次年度の改善方針について検討を進めていることと思います。一年間のすべての取り組みを整理し、課題の改善を図り、成果を積み上げることでよりよい学校づくりが着実に進められていきます。子どもたちも同じです。一年間の自分の成長を実感させ、自信を持たせることで、これまでに培った力をもとに4月から一つ上があった学年での新しい生活を創っていくことができるのではない

かと考えます。

学校の営みは、一年ごとに修了し、一定の区切りはあるものの、その一年一年が子どもたちの未来につながっているのです。

このことを私が改めて認識させられたのは、数年前に介護・高齢福祉課の職員と協働してある事案に対応したときのことです。私の「福祉の仕事って大変ですね。」との声かけに、彼は「教育の方が大変ですよ。教育は子どもたちの未来を背負っているのですから。」と返されました。

例えば、15歳での進路選択、18歳選挙権、二〇二〇年の大学入試改革など、近い将来に出会う現実的な問題に対して、子どもたちが自ら判断し、未来を切り拓いていくことができるよう、学校は進路保障やその先につながる社会的自立にかかる様々な取り組みの充実に努めていかななくてはなり

ません。

このことは義務教育の出口である中学校だけの問題ではありません。幼保小中の一年一年が子どもたちの成長の積み重ねとなるよう、発達段階に応じた「つけるべき力」の育成に中学校区の教職員一人一人が責任をもって取り組み、次年度につなげることで、子どもたちの可能性は大きく広がっていくものと考えます。

3月は終わりではなく、新しい4月の始まりです。



研究報告

各研究の詳しい内容は教育支援課までお問い合わせください。
メールにて資料を送付いたします。



平成27年度、教育支援課で取り組んできた研究を報告します。それぞれの研究にあたり、御協力いただきました先生方及び学校・園、関係機関に心よりお礼申し上げます。この研究の成果が、今後の学校・園での実践に広く活用されることを願います。

第398集

研修・研究グループ 研修員 丹羽 晶子

小学校理科における問題解決能力を育成する学習指導法の研究 — 結果を見通しながら実験計画を立てる指導を通して —

問題解決能力を育成するために、小学校理科において結果を見通しながら実験計画を立てることに重点をおいた指導を行い、その実践による効果を検証しました。

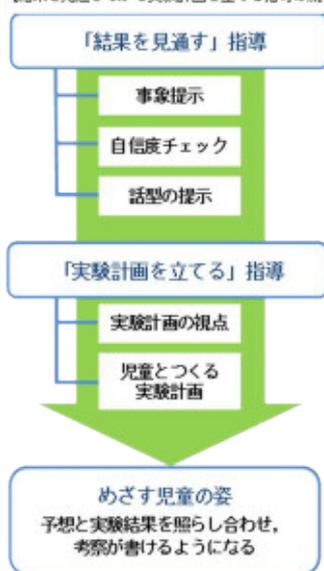
この指導の中の「結果を見通す」部分は、予想を確かめるための実験方法を考え、実験で得られる結果まで見通すことです。「実験計画を立てる」部分は、児童が実験方法をもとに、主体的に実験計画を考えることです。

これらの指導に重点をおいたことで、予想と実験結果を照らし合わせ、考察を書ける児童が多く見られるようになりました。

【児童の感想】

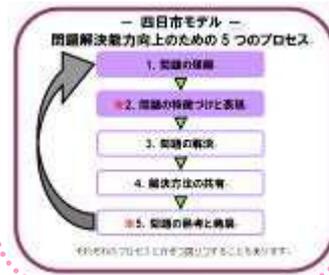
- ・ 予想、実験計画、考察が自分で書けるようになり、理科の学習が好きになった。やる気が出た。
- ・ 前は「まちがってないかな」と迷いがあったけど、実験したことで自分の考えに自信が持て、結果や考察を自分で考えてできるようになった。

【結果を見通しながら実験計画を立てる指導の流れ】



執筆者からの一言

「結果を見通しながら実験計画を立てる」指導は、「四日市モデル」の第1・2プロセスにあたります。



※参考文献「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック 四日市モデル」

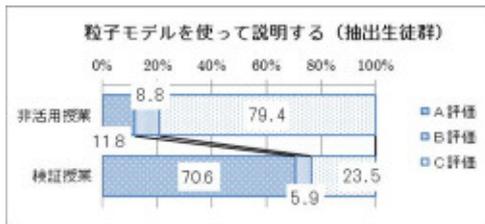
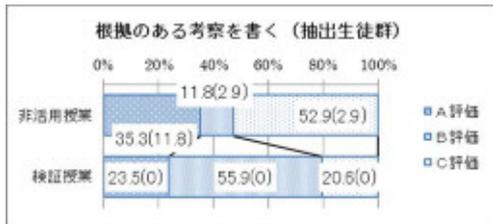
第399集

研修・研究グループ 長期研修員 吉田 景子

中学校理科の学習におけるタブレットPCの活用に関する研究 — 思考・表現することが苦手な生徒に焦点をあてて —

中学校理科において科学的な思考力・表現力を育むために、言語活動でタブレットPCを活用することの有効性について検証しました。

実験結果を写真と文字で整理し、その画像を振り返る時間を設けることで、考察が苦手な生徒が自分の言葉で書くことができました。また、タブレットPCの画面に粒子モデルを書き込み、班やクラスで共有することで、現象を説明することが苦手な生徒が粒子モデルを使って正しく表現し説明できました。



「非活用授業」：タブレットPCを活用しない授業 左図カッコ内の数字：他の生徒と同じ文章を書いていた生徒の割合

～事後意識調査の記述より～

- ・ 結果の写真があるから、どんなふうになっているかが考えやすく、考察が書きやすかった。
- ・ 紙ではなく、タブレットPCに書き込みながら話し合ったほうが盛り上がり、よく分かった。



執筆者からの一言

タブレットPCは1班(3～4人)で1台を活用しました。また、タブレットPCを活用することが学習活動の負担にならないように、活用方法も以下のような初歩的な4つに絞って実践を進めました。

- ① 「撮影する」
- ② 「書き込む」
- ③ 「送受信する」
- ④ 「振り返る」



不登校児童生徒に再登校を促す支援方法についての一考察(2年次) ～適応指導教室における支援モデルの実践を通して～

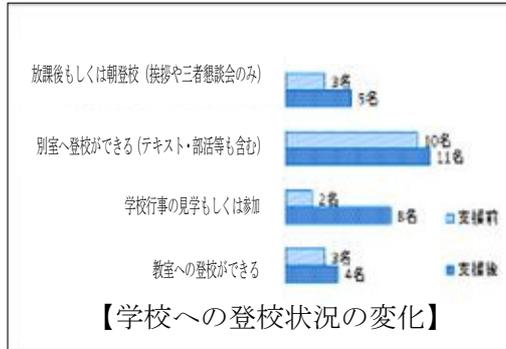
不登校児童生徒の再登校を促す支援方法について考察しました。

まずは、生徒自身が「がんばりチェックシート」を用いてセルフチェックを行い、自分の強みや弱みなどを確認しました。その後、指導員とともに目標を確認しながら、「集団参加」「意思表示」「生活改善」のスキルに焦点を絞り、支援を行いました。

その結果、個々のスキルが向上し、少しずつ再登校へのステップを進めることができました【右グラフ】。

また、肯定的フィードバックを行うことで、自己肯定感を高めることもできました。

さらに、昨年度及び本年度の研究を踏襲し、適応指導教室において、不登校児童生徒を支援する時の手がかりとなる「支援プログラム(2016)」を作成しました。



教育支援課 研修・研究グループより

あなたの「学びたい」をサポート！！平成27年度若手教員塾

今年度から若手教員塾を始めました。16時から17時の短い時間ですが、ポイントをしぼり充実した研修会になりました。また、積極的に多数回を受講される方もみえました。

回	開催日時	タイトル	講師
1	5月15日(金)	「教室環境を どのように作っていますか」	教育支援課
2	6月5日(金)	「使って便利・分かって楽しい ICTを活用してみませんか」	教育支援課
3	9月11日(金)	「いきいきと取り組める クラス合唱指導のヒント」	教育支援課
4	10月2日(金)	「効果のある教育相談のために必要なこと」	内部中学校 教諭 三輪 啓子
5	11月6日(金)	「これだけはやっておきたい 国語科教材研究の1・2・3！」	大谷台小学校 指導教諭 倉田浩子
6	1月8日(金)	「学校が苦しい子どもたち ～必要な支援を考える～」	愛知文教女子短期大学 教授 水谷 久康



受講者の声



1時間という短い間でしたが、合唱指導のコツを具体的に沢山教えていただけて、実践したいと思うことがたくさんありました。



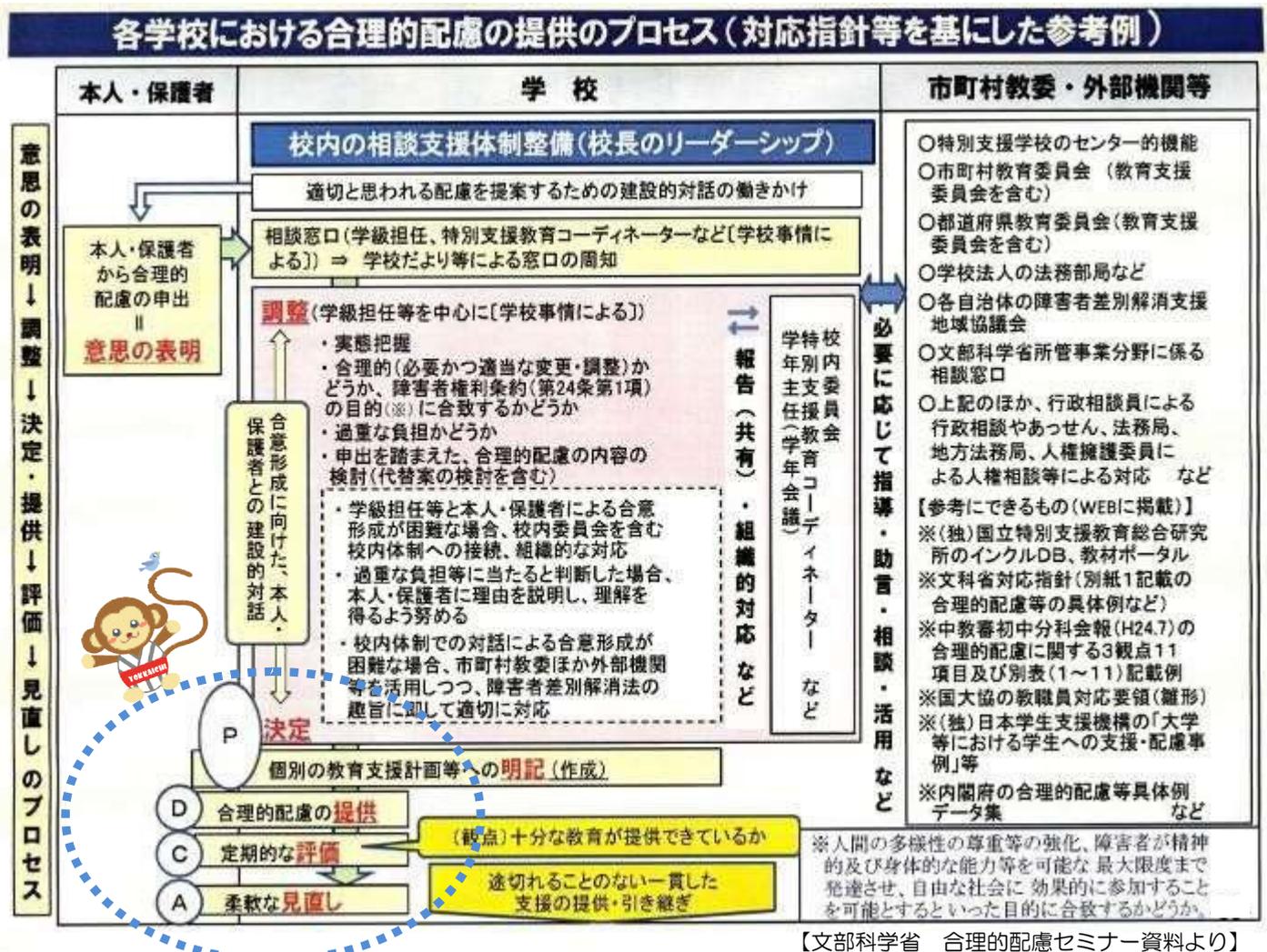
この研修を受けて、なんだかわくわくしました。子どももそんな風にわくわくしながら学習できるようにしたいです。

PDCAサイクルによる合理的配慮の提供

平成 28 年 4 月 1 日から障害者差別解消法が施行されます。この法律では、「不当な差別的取扱い」をしないこと、「合理的配慮」をすることが定められています。

合理的配慮とは『障害のある子どもが、他の子どもと平等に【教育を受ける権利】を享有・行使することを確保するために、教育委員会や学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、個別に必要とされるものである。また、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの』とされています。

合理的配慮については、子どもの実態把握を十分に行い、PDCA サイクルで見直しをします。そのためには、下の図のように、校内特別支援委員会の定期的な開催等、相談支援体制を充実する必要があります。



校内相談支援体制の充実に向けての取り組み

- 保護者への相談窓口の周知
- 保護者との建設的な対話・・・十分な実態把握をし、合理的配慮の必要性を検討
- 校内特別支援委員会の定期的な開催・・・情報共有とPDCAサイクルによる支援の見直し
- 相談支援ファイルに合理的配慮を明記・・・管理職の確認
- 合理的配慮の確実な引継ぎ・・・校園内及び進路先へ